



02  
*The STORY*  
*of the Bespoke Jacket*  
*Made of*  
*Japanese Wool*

初の純国産ツイード  
**「ハリコシの強い貴重な羊毛は  
 厚みがあり、素朴な風合い」**  
 THE J.SHEPHERDSとは――



代表取締役  
**中野香織**さん

ラグジュアリービジネスに  
 関する執筆・講演のほか  
 企業の顧問を務める。  
 THE J.SHEPHERDSの  
 アドバイザーも務めている。

ジェイ・シェパードズ  
**THE J.SHEPHERDS**  
 原毛から  
 日本製にこだわる  
 生地ブランド

1850年に尾州で創業された国産株式会社  
 (現KUNSHIMA)により、2019年に日本で初  
 めての国産羊毛を使うツイードプロジェクトが  
 開始。2020年の秋からツイードコレクション  
 「THE J.SHEPHERDS(ジェイ・シェパードズ)」  
 が展開された。日本各地の羊牧場の羊毛が、  
 尾州の工場ですべてに織り上げられる。



## 今まで捨てられていた 上質な羊毛がツイードに

では本場英国の生地にも明るい価格を降らせたT H E J・S H E P H E R D Sとは一体どのような生地ブランドなのだろうか。まだスカートとして聞かない同ブランドについて、まず紹介しよう。

T H E J・S H E P H E R D Sを展開する国鳥株式会社は、尾州こと愛知県尾張一宮にある毛織物メーカーだ。その歴史は古く、前身である国鳥商店が創業したのは1850年と、創業より170年以上経つ老舗中の老舗だ。そんな国鳥が日本の牧羊業を救う一大プロジェクトをスタートさせたことが、このツイードが誕生したきっかけだ。

現在、日本で飼育されている羊の数は約1万7千頭（その中の約1万頭が北海道、オーストラリアの約700万頭、中国の約1億6000万頭と比べると、いかに日本の牧羊業の規模が小さいかが分かる。そして実は、羊毛となるとそのほとんどが活かされていないのだ。日本の牧羊業の中心である北海道の羊でも、4プアード種を中心にポールドセット種など様々な種類の羊がいながら、ほとんど食肉生産のみに利用され、毛のり割は廃棄されてきた。特にポールドセット種はコシハリの強い貴重な羊毛であるが、同じく廃棄されてしまっていたのだ。

このように羊毛が廃棄されてきたのは、毛刈り後の工程と物流に莫大なコストがかかったからだ。さらに羊毛には泥や油が付着しており、羊毛としての商品化を困難にしていたという問題があり、上質な羊毛も今

まで深く捨てられていた。

そんななか立ち上がったのが、国鳥株式会社社長である伊藤雄太郎さんだ。日本各地の羊毛輸入業者や毛刈り職人など旧知の仕事仲間と協力をおき、毛刈りの技術や選別や管理の知識を、各地の牧場で共有して広めていった。そして、捨てられていた羊毛を商品化したうえで、羊毛を国鳥が買い取るという物流の流れを整えたのだ。そして買い取った羊毛を、愛知県一宮市の自社工場

日本で行った、初めての純国産ツイード、T H E J・S H E P H E R D Sが誕生した。

しかも、このツイードは、洗毛過程で化学染料を使わない100%オメガニックなもの。日本の羊毛の特徴である、豊かなクリンプから生まれるふくらみ感を活かすため、化学処理の工程をせず、お湯だけで洗われているのだ。この手間のかかる工程により、かつてツイードが生まれた頃のような、弾力とハリ感があるウインターツイードのような風合いが実現されているのだ。

T H E J・S H E P H E R D Sのアドバイザーを務める、中野香織さんは、生地の特徴をこう語る。

「この純国産ツイードは、弾力のある原毛を活かした厚みのある生地、素朴な風合いに仕上がっています。そして、生地を顔に近づけると、そこはかとなく牧草の香りがします。このツイードで織られたコートをお試してみたい。原毛を多く用いて高密度に織り上げており、海外の有名ツイードと比べ2割ほど重たいはずですが、予想よりも軽い着心地。ポールドセット種の羊毛は細

れが強く、空気を多く含むので、その風合いを活かすようにやさしく洗毛するなど、こだわりぬいて試作を重ねた成果でしょう。さらに参加牧場の拡大に伴い、羊毛の品種も増えています。そのような羊毛が採用されることで、毎年、異なる風合いのツイードが生まれます。ある年のツイードは将来、価値を帯びるかもしれませんし、ウインの当たり年のように、ワクワクしますよ〜」

日本の牧羊業の担い手の熱い思いから生まれたこのツイードには、これからさらに注目が集まるだろう。

